

2021年（令和3年）10月21日

茨城新聞・文化

「学び」多角的に考察

千葉・佐倉 赤水の地図も展示



長久保赤水の「改正日本輿地図」
（右）ほかイギリス・イムレイ社日本南部沿海図を並べて対比

幕末以降の近代日本で人々は何を学び、なぜ学んできたか。対外関係史や文化史など、さまざまな側面から考察した「学びの歴史像」わたりあう近代——展が、千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館で開かれている。12月12日まで。

同展は6章で構成。第1章「世界と日本の認識をめぐる〈学び〉」では、長久保赤水や伊能忠敬の日本地図とイギリスのイムレイ社日本南部沿海図などを対比。影響し合っている様子を浮き彫りにする。

第2章では、旧幕臣が維新後にも政治・行政・経済分野で活躍した足跡を示す史料を並べた。第3章では、明治初期に盛んに開かれた内国勧業博

覧会を通して、「開化」が「富国」へ向かう足取りを追う。

第4～6章では、ハンセン病患者が差別に伴い隔離される中、病と隣り合わせながらも生きる姿勢を見せた文化活動の一端を紹介。北海道のアイヌや沖縄の人々が、日本の近代教育制度について残した史料も集めた。

同館は「学びといっても狭義の学校教育史ではない」とした上で「中央と周縁、強者と弱者など緊張感をはらんだわたりあいを伴いつつ、教育や学知を通じて『国民』が生まみ出されていく過程を明らかにした」と話している。

月曜休館。一般1000円、大学生500円。